

向こう三軒両隣の再編

—不安の共有による新たなつながりー



交流棟を訪れた地域住民はここでの助け合いの様子を知り、ランドスケープに出ていくことで、不安の共有という助け合いの必要性を学んでいく

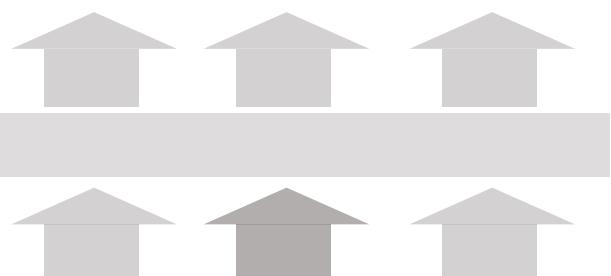


南側



北側

01. 研究背景 一助け合い精神の復活ー



かつて日本では向こう三軒両隣と呼ばれる生活文化が存在し、近所の人との助け合いで生活が成り立っていた。住民たちは、醤油や味噌の貸し借りなど他人に対して思いやりを持ち、家の前の掃除を通して街を思いやる心を持っていた。しかし、生活が便利になったことで向こう三軒両隣の助け合いは衰退していった。向こう三軒両隣の暮らしを新しく復活させ、人と街を思いやる心を育む都市空間を作り、共助の必要性を伝えることを目的とした。

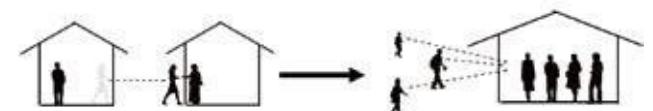
02. 社会背景

I. 個人化 一家族単位から個人単位へー



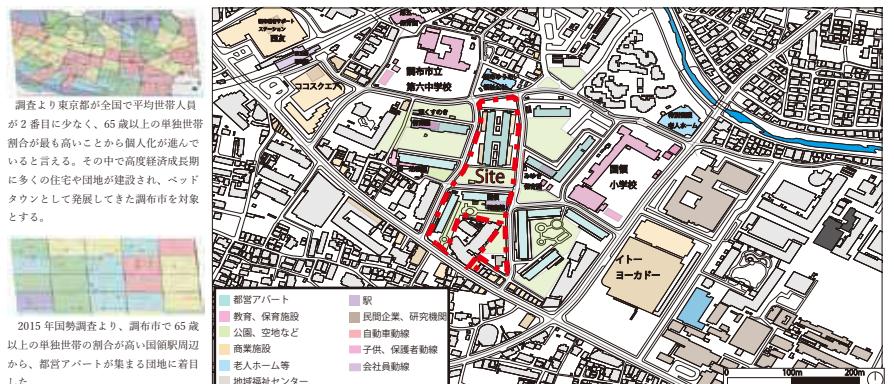
1950年頃までは農業社会であり、家は生産と生活を共有する機能を持つものであったが、都市化や社会の多様化により家に共存していた生産と生活が切り離され、家族単位のシステムからコンビニなど個人単位のシステムが形成された。

II. 負の連帯 ー富の共有から不安の共有へー



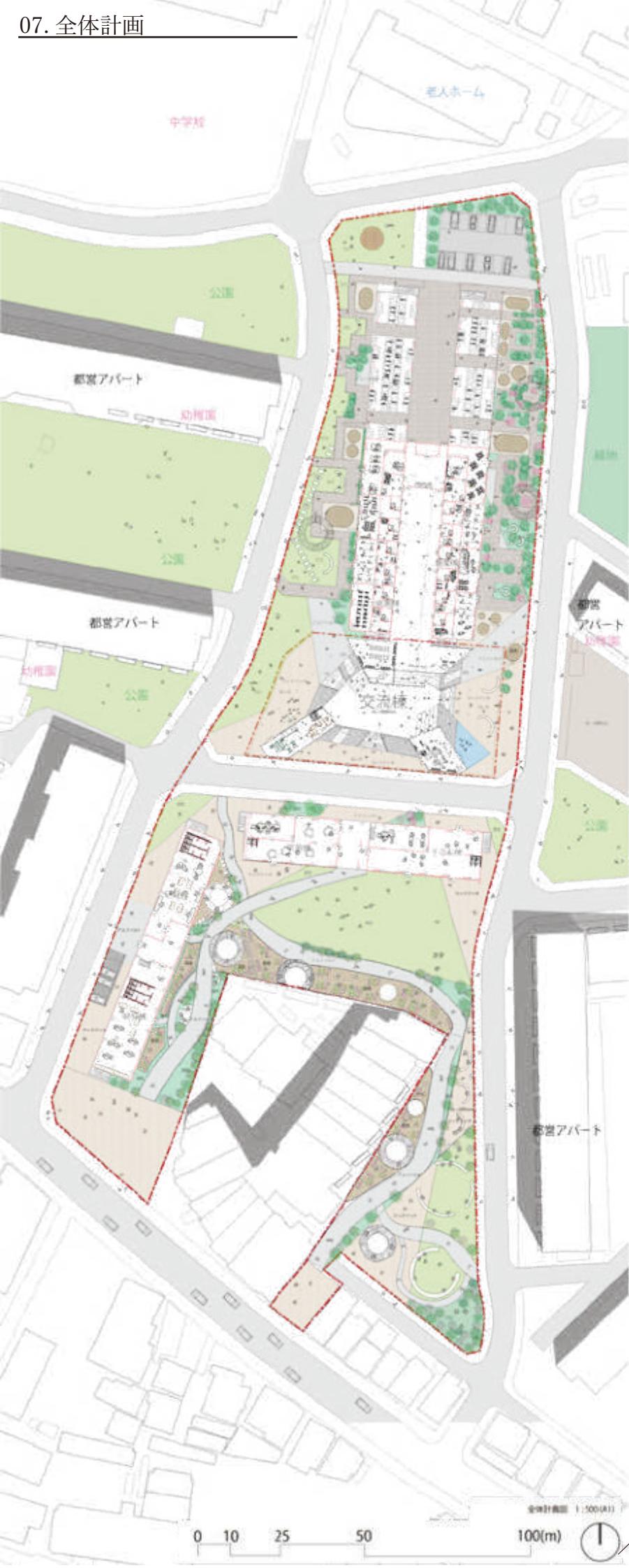
かつての向こう三軒両隣では、共同体での経済的な助け合いが行われていた。現在では、子ども食堂や生活の場を共有するシェアハウスなど、個人の不安を共有する連帯が生じている。今日において助け合いの精神を復活させるには、個人の不安を共有する連帯を生じさせることが必要である。

03. 対象敷地 ー国領 都営くすのき団地ー

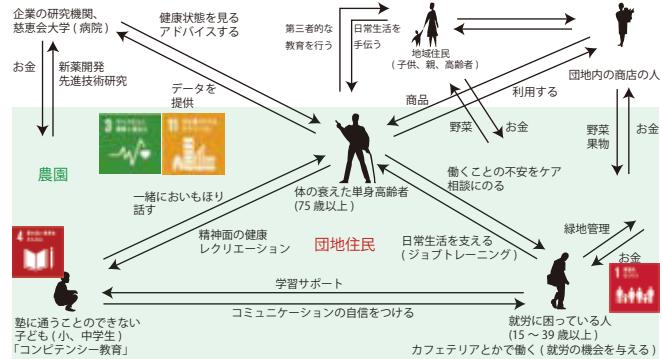


個人化が進行している今日において、地縁や血縁を失った単身高齢者が孤立している環境を問題として掲げる。国領駅周辺から、都営アパートが集まる団地の低層部と公園、広場を対象敷地とした。都営住宅には単身高齢者の他に学習塾に通うことのできない子供や就労に困っている人も住んでいると考えられる。団地内では杖について歩く高齢者やひとりで車椅子をこぐ高齢者が見られ、高齢者が団地のコミュニティから孤立している。

07. 全体計画



04. 提案システム



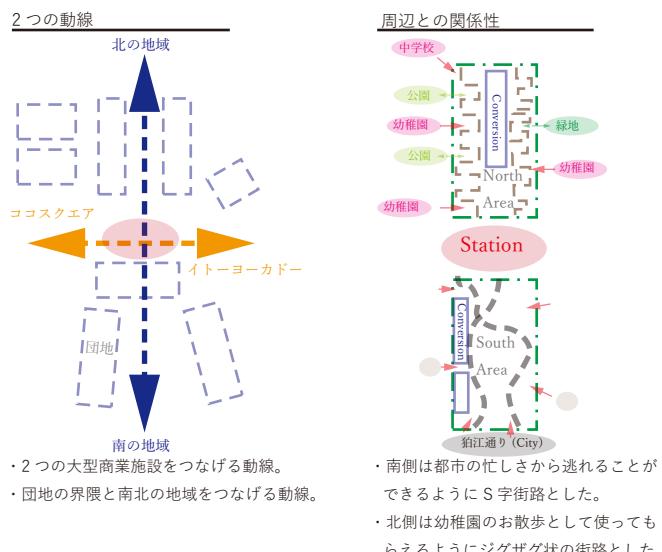
05. 敷地調査



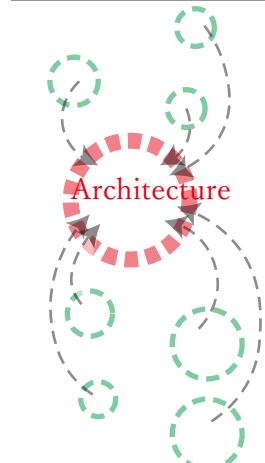
アパートの一階には商店や児童館などがあり、低層部に機能が集まる特徴がある。建物の老朽化や大型商業施設が近くにあるため、商店街は衰退している。道路は車が通り危なく、夜は灯りがなくぶっそいで入りづらいため、高齢者の団地コミュニティからの孤立に加えて、景観に問題がある。

06. コンセプト

10階建てのアパートが集まる都営団地の低層部をリノベーションすることで、元々存在する谷底のような空間の中に活動を生み出し、空間の質や都市の中でのこの場所の在り方を180度変化させた。

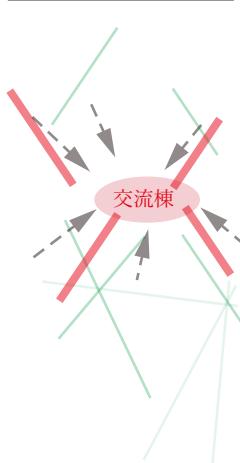


集積と発散の役割を果たす建築



- ・ランドスケープで育まれる小さなコミュニティ同士が建築部分で融和する。

交流棟へ引き込むグリッド



- ・交流棟へ引き込むグリッドを用いて、交流棟と南北のランドスケープをつなげた。

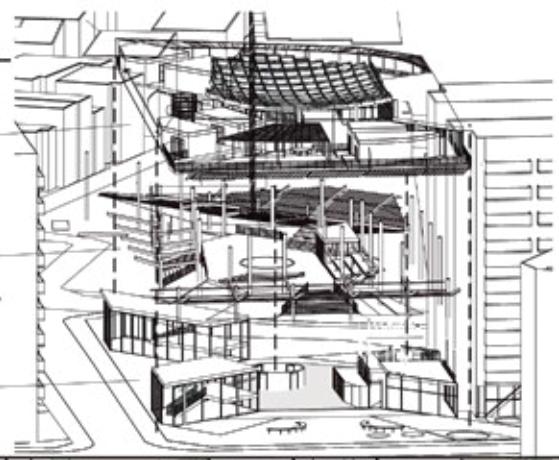
4つのコンセプトレイヤーを重ねて計画を検討した。

08. 交流棟 ダイアグラム

交流棟は全体において集積と発散を促すリビングのような機能を持ち、其跡の必要性を伝える役割を果たす。

『団地のプライベート空間』

団地住民のプライベート空間またはランドスケープ部分で知り合った人たちと交流を深める空間を計画した。



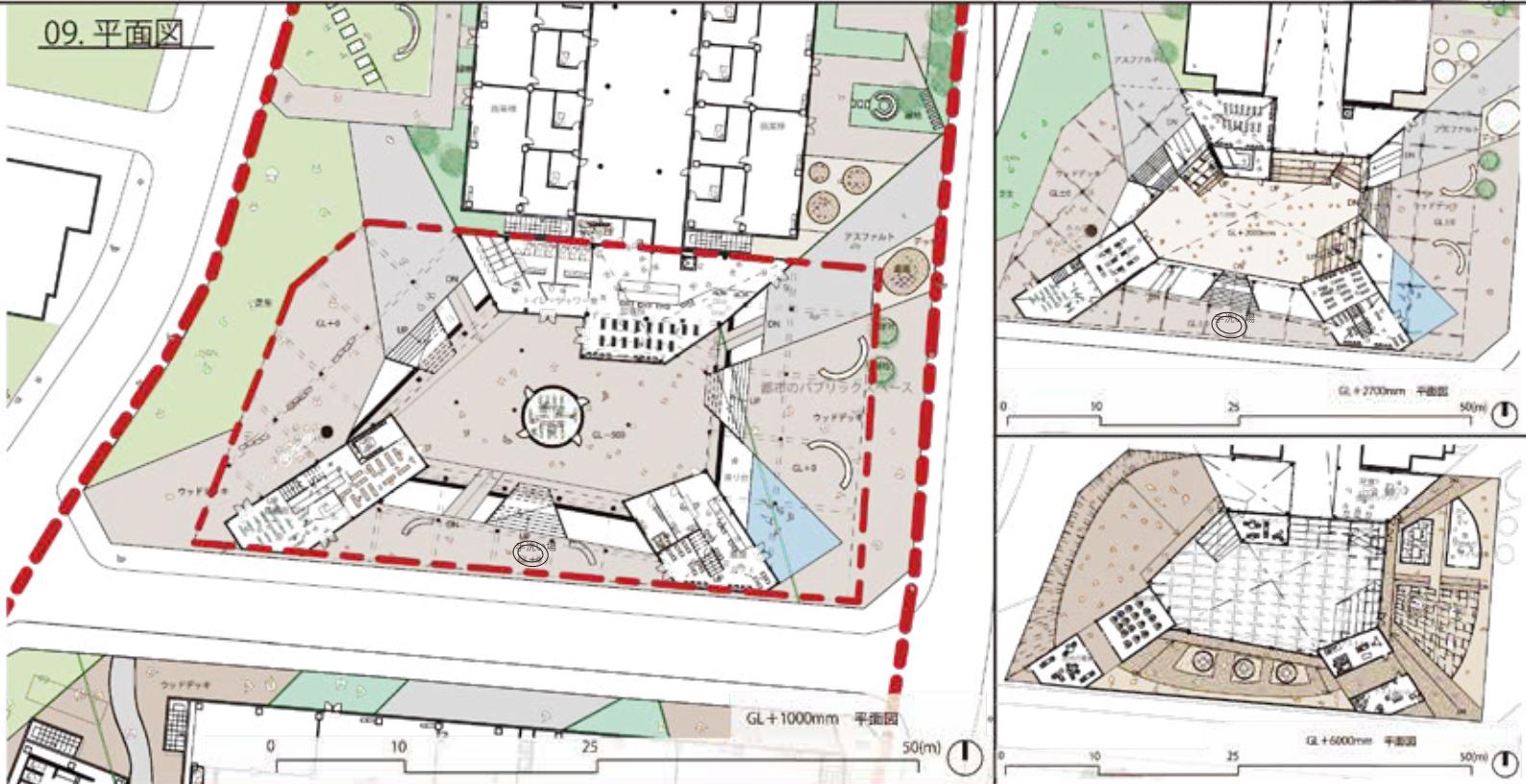
『集う空間』

団地の2階と地上レベルの中間に、全方位性がある集まりを感じる空間を計画し、コミュニティを活性化させる。

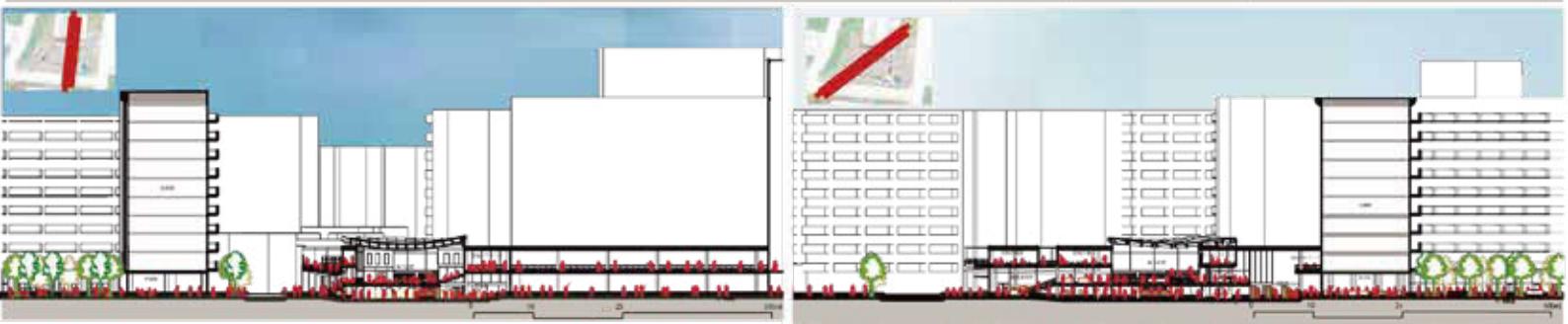
『都市のパブリックスペース』

周囲を高層の建物で囲われている点より都市の生活に貢献するパブリックスペースを計画した。

09. 平面図



10. 断面図



研究棟



リハビリ農業を慈恵会大学の学生や関係者と共に、高齢者は健康面での不安を共有。慈恵会大学の学生は将来医師になるにあたって高齢者と話すといったコミュニケーションの不安を共有。

南側農園



円形のバーベラでアドクを育てることによって話すきっかけを作り出し、就労に困っている人は生活リズムを整え、働くことの不安を共有。高齢者は日常生活の不安を共有。

学習棟



高齢者の健康面での不安を共有、子どもの学習面での不安を共有、医者の子どもや高齢者と話すというコミュニケーションの不安を共有。

商業棟



ランドスケープを改善することで、イトヨーカドーとは異なる価値を創出し、売り上げの不安を解消、新たなテナントの誘致にもつながる。

都市のパブリックスペース



イトヨーカドーなどから来た地域住民にとってこの施設の玄関となる都市のパブリックスペース。

農園直売所



農園直売所で自分たちで作った作物を外の人に買ってもらうことは、高齢者や就労に困っている人にとって生きがいにつながる。

団地のライブラリー



階段下の空間の団地ライブラリーにはみんなで共有するおもちゃであったり、読みなくなった本、ここで助け合いの活動を知らせる写真などがあり、ものの共有意識を育む。

団地のラウンジ



団地のラウンジには団地住人用のコインランドリーがあり、団地住人にとっての玄関となる。

団地のプライベートスペース



親が仕事で忙しくて一人でご飯を食べていた子どもや、単身高齢者が一人でご飯を食べることの不安を共有。

団地バルコニーからの景色



「いつでもそこに誰かがいるという存在感」は団地住民に心の安定を与える。